

シカ水稲被害を軽減する営農管理技術の実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

シカによる水稲の被害は、田植え直後の苗の引き抜きや食害、収穫期頃の穂先食害によって減収につながっています。被害対策として、電気柵や金網柵の設置が行われていますが、田植えと同時期に行う必要があることから、規模の大きい水稲農家では被害対策を実施するのが困難な状況です。

そこで、深水管理が水稲初期のシカ被害軽減に有効であることが試験研究で明らかになっており、その有効性を検証するとともに中干し期～収穫期までの被害対策として、超低コスト電気柵を設置しその効果を検証しました。

【普及活動の成果】

(1) 実証内容

- ・初期の被害防止対策：深水管理（移植後～中干し期） 水深 10～15 cm
- ・収穫期の被害防止：超低コスト柵（中干し～収穫期） 獣堀君ライトの実証
- ・実証場所：東近江市大覚寺 高島市マキノ町下
- ・調査方法：シカの水田への侵入状況、被害の状況を1ヶ月に1～2回程度達観で調査および農家に対する聞き取り調査

耕種概要

	品種名	田植え日	中干し	収穫期	ほ場	シカの出没時期	出沒頻度	見かける頭数
東近江市	飼料米	4/27	6/15～23	9/20	1500㎡	5～7月頃	2・3日に1回	2・3頭程度
高島市	コシヒカリ	5/3	6/11～20	9/14	760㎡・1300㎡	周年	まほ毎日	5頭以上

(2) 結果

	東近江	マキノ町
深水の管理状況	深水管理期間中（4/28～6/15）は、平均水深10cmを確保するのは困難であった。	深水管理期間中（5/3～6/11）、5～10cm程度の水深であった
深水中の被害状況	期間中、畦際でシカによる食害が数株、観察される	深水管理中、シカの侵入は全くなかった。隣接水田では足跡、フン、食害を確認した
獣堀君ライトの効果	獣堀君ライトを設置以降（6/21）、シカの実証田への侵入は 電牧器の電池切れによる侵入以外目立った侵入はなかった。	獣堀君ライト（8/11～9/14）は別の水田で実証を行った。期間中シカ侵入は確認されなかった。平年と比較し1.5倍の収量があった
全期間中の被害程度	昨年度の収穫はイノシシ被害で皆無に近い状況であったが、今年度は被害微程度。	深水管理の実証田は、収穫期にイノシシ被害で約20%の被害面積があった。
隣接田の被害	隣接田の被害は中程度	隣接水田にはイノシシの侵入で減収した

(3) 考察

- ①深水管理については、マキノ町では期間中の水深がほぼ確保できましたが、水利や土質等水田の構造によって水深の確保が課題と思われます。
- ②獣堀君ライトはシカ、イノシシの侵入防止効果が高いですが、除草や自然災害による破損などの管理が必要です。設置・撤収は軽作業であり、設置に要する時間も夫婦で10a/3h程度で行えることから、普及性は高いと思われます。
- ③担い手農家がシカ（イノシシ）対策として、田植えから収穫までをカバーできる一連の体系として普及が可能と考えられます。
- ④シカの出没頻度によって、深水だけの管理と深水＋低コスト柵の組合せが選択可能と考えられます。